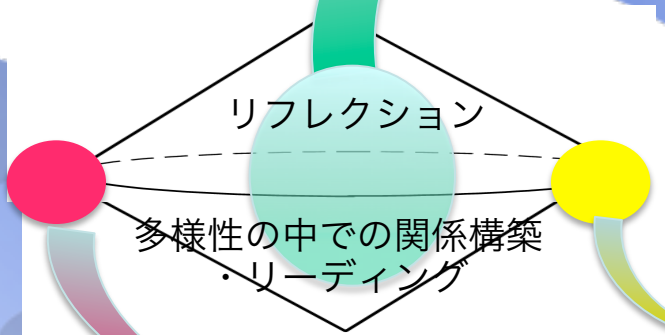


PSRベーシック・プログラム2018 「リベラルアーツと自分軸の確立」 参加者の声

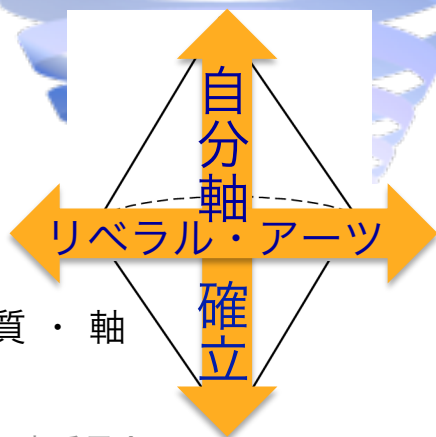
経済人コー円卓会議日本委員会

CAUX  ROUND TABLE

実践 (個別コンサルティング)



異文化間における
創造的合意形成



【PSRプログラム全体像】

(4) Cauxプログラム：6日間
(毎年7月上旬開講予定)

(3) フィールドワーク
7日間/回 年に2回の実施予定
**アジア、ヨーロッパで
各1回想定

(2) アドバンス・プログラム
3時間/x 6回 (隔月開催)

(1) 8ヶ月ベーシック・プログラム
2日間連続・終日/月 x 8回

◆ プログラム受講前と比較してのご自身の変化

【自分軸・判断軸が明確になった】

- ▷ このプログラムへの参加を通して、信念と軸を定められつつあること
- ▷ 判断軸をもつことの重要性和、判断軸のベースとなる考え方、それに基づく行動を心がけるようになった
- ▷ 周囲の自分への評価を気にしていたが、自分を基準にするようになった
- ▷ 自分の軸、心の拠り所を意識するようになった

【他者との関わり方が変化した】

- ▷ 相手を聞き入れ、その対応に幅が出たこと
- ▷ 他者との対話・納得性に深みが出るように変化

◆ プログラム受講前と比較してのご自身の変化

【他者との関わり方が変化した】(続き)

- ▷ 心の余白を保持することを心がけ、人と対話し、人の意見に耳を傾ける余裕を持つことを意識するようになった

【考え方・認識の変化、人間の幅が広がった】

- ▷ 物事を深く掘り下げて考えるようになった

なぜこうなったのだろうか？どのような意味があるのだろうか？普遍性は？
将来にどのような影響を及ぼすのだろうか？など

- ▷ ものの見方に深み（表面的だけでなく、その背景にあるものなどを意識）ができてきていると思う
- ▷ 今という時代や世界を俯瞰してみることができ、その中で生きていく自分は何を成し遂げたいのか？がより明瞭になった

◆ プログラム受講前と比較してのご自身の変化

【考え方・認識の変化、人間の幅が広がった】(続き)

- ▶ 答えのない課題に対処するに際し、今までは思考停止していたが、どこからか引き出しを見つけて思考できるようになったこと
- ▶ いろいろな可能性を考慮するようになった
- ▶ 日本人の特性・特徴を学び、自身に対する誇りにつながった
- ▶ 日本人の特徴（未完、曖昧さ）をプラスに捉えられるようになった
- ▶ 自分のチャレンジ課題を肯定し受け入れる変化
- ▶ 小さなこだわりから大局観で見るように（少しずつ）変化
- ▶ 多面的・俯瞰的に考えること
- ▶ 哲学や宗教、歴史が今のビジネスへImplicationを与えているという実感

◆ プログラム受講前と比較してのご自身の変化

【考え方・認識の変化、人間の幅が広がった】（続き）

- ▷ 受講前： 宗教、哲学、歴史などの教養は難しくて、あまり役立ちそうにない
受講後： 教養は思想系の大いなる海、これを理解せずに人間社会はわからない、ビジネスもできない
- ▷ 余白を持つような余裕が少し生まれた。
- ▷ もっと学ぼうと思うようになった（読書など）
- ▷ 学習に対して意欲的になった（本を読む、深掘りをするなど）

◆ プログラムへの参加を通じ、ご自身にとって最も大きな学びとなった点（上位3つまで）

- ▷ 対立軸だけでなく、相手との共通項を見出すことが大事
- ▷ A+B→Cを見つける発想
- ▷ 最新の企業経営トレンド（ESG投資、SDGs）、資本主義の行き詰まりと責任
- ▷ リベラル・アーツと資本主義、現代経営との関わりについての学び
- ▷ 交渉に際しての心構え（引き際について譲れない線と相手に逃げ場を残すこと）
- ▷ ものの始まりへの意識や、行動すること・誰か？（自分は何者か？）といった本質や存在意義というものを考えるようになった。
- ▷ 漠然と捉えていた企業理念・ビジョンを改めて認識し、その深い意味を感じるようになった
- ▷ 余白を持つ心の大切さを実感

◆ プログラムへの参加を通じ、ご自身にとって最も大きな学びとなった点（上位3つまで） ＊続き

- ▷ 引き際の設定が大事
- ▷ 宗教や歴史を振り返りつつ、今の資本主義に至った流れを理解した。競争や敵対ではなく、ともに取り組む時代になったことを実感。
- ▷ 自分に足りない点を見つめ直し、改めて認識したこと
相手の立場で聞く / 考える
- ▷ ぶれない軸、心の拠り所を持つことの重要性（止観、寛と厳、性善説と性悪説の使い分け）といった、経営者として必要なことを学べた
- ▷ 日本人の特徴（未完の美）が今後、強みになりうるということ
- ▷ 非財務情報の活用がビジネスチャンスになりうること
- ▷ 哲学・宗教・文化等、それぞれの知識はまだまだ浅いが、引き出しを持つことができたこと
- ▷ 自分自身のぶれない軸の滋養に向けた思考プロセス

◆ プログラムへの参加を通じ、ご自身にとって最も大きな学びとなった点（上位3つまで） ＊続き

- ▷ 人の考え・行動の背景には、リベラル・アーツが存在するという事と、多様性の存在を知ったこと
- ▷ 日本人としての誇りを持てたこと
- ▷ 物事の裏にある本質とその本質を見つけるためのヒント
- ▷ 未完の美・余白→ 確かに自分の根底にあることを実感
- ▷ 資本主義の今後
- ▷ 宗教・哲学・文化から今のビジネス、世界経済に繋がっているという見方
- ▷ 価値観の形成プロセスに対する考え方（宗教）
- ▷ 視野・視座・視点を高められる
- ▷ “ものごと”の捉え方・光の当て方・幅が広がる

◆ プログラムへの参加を通じ、ご自身にとって最も大きな学びとなった点（上位3つまで） ＊続き

- ▷ 掘り下げて見つめてみる機会（内省から他者・世界を新しい目で見ることができる）
- ▷ 総じて、自分の仕事や身の回りの世界を空間的にも時間的にも、より大きなサイズで俯瞰する感覚と言葉にする力が養われた
 - ・ 社会、世界を自分なりの視点で再構成して捉え直すための基礎づくり
例：宗教社会学、哲学、歴史等
 - ・ 人生における目的に「世界を知る」が加わった
 - ・ 強かさの一つとして、ズラす感覚が加わった
例：未完の美、引き際、モノづくりと見せかけたワケづくり
- ▷ 掘り下げて見つめてみる機会
内省から他者・世界を新しい目で見ることができる
- ▷ 世論の閾値を如何に動かすか（＝ルールメイキング）について、したたかに取り組むことが自社の課題であると認識
- ▷ 視座 A 「or」 Bではなく、A 「and」 Bの概念

◆ プログラムへの参加を通じ、もっとも印象に残っていること

- ▷ ビジネスを進める上で、会社が扱う製品やサービスだけでなく、リベラル・アーツの要素が非常に重要だということを知ったこと
- ▷ ルールメイキング、対競争視点を超えた経営戦略の存在と重要性を学べたこと
- ▷ $A+B=C$ の創出、非市場戦略
- ▷ 性善説と性悪説
- ▷ 美という意識
- ▷ 龍安寺の石庭で十分な時間をとって想いや考えを整理したこと
- ▷ 龍安寺で未完の美を体感できたこと
- ▷ 最後の発表で、ビジネスの実践においては課題がたくさんあり、さらなる深掘りが必要と実感したこと
- ▷ 龍安寺の石庭見学。自分を見つめ直す時間を持てたこと。

◆ プログラムへの参加を通じ、もっとも印象に残っていること ＊続き

- ▷ 東洋と西洋の価値観に基づく物事の見方
- ▷ 龍安寺の石庭
- ▷ 正解のないことをみんなで議論するのは面白い
- ▷ もっと深めたら何が起こるのか・・・？
- ▷ ルールメイキングの世界を知れたこと
- ▷ 資本主義と宗教の関わり
- ▷ 資本主義の生い立ちについて考えたことがなかったので、全てのことが新鮮であり、驚きをもって取り組めた
- ▷ “止観”と“引き際”などのキーワードを得られたこと
→ ルールメイキングの必要性（ワクワク感）を考える機会

◆ プログラムの一番の魅力

- ▷ 古典を参照しながらも実践的であること
- ▷ 一見、何の関係性もないと思われる、西洋哲学、宗教、東洋思想と現代社会、ビジネスとの関連性を学び、そこから新たな事業戦略を生み出す考え方・視点を学べた点
- ▷ 自身では学び得なかったリベラル・アーツという世界に入り、実感できること
- ▷ 自分自身を見つめ、自分とは？社会とは？会社とは？を考えるようになること（経営視点の醸成）
- ▷ 自分を客観的に見つめ、考える時間がしっかりあること
- ▷ 考えの押し付けでなく、「こんな考えもある」という気づきが得られること
- ▷ 日本人としてのアイデンティティを再考できること
- ▷ いろいろな観点から自分自身を見つめ直す機会をもった。
- ▷ 石田さんの実体験に基づく話、夢のある話に惹きつけられる。

◆ プログラムの一番の魅力 ＊続き

- ▷ 今まで頭になかった物事の見方、切り口
- ▷ 自己と向き合うのと同時に、人の価値観に触れられる事
- ▷ 石田さんのお話。ゲートキーパー(にわかには信じられない世界のウラ側)とか、不死の薬とか、地球防衛軍とか
- ▷ 石田さんのファシリテーションとディスカッションできるメンバーのレベルの高さ
- ▷ High Contextな内容に持論が持てる事
- ▷ 他者（プログラム参加者）とのダイアログを通じた気づき（点→線→面化）

CAUX ROUND TABLE